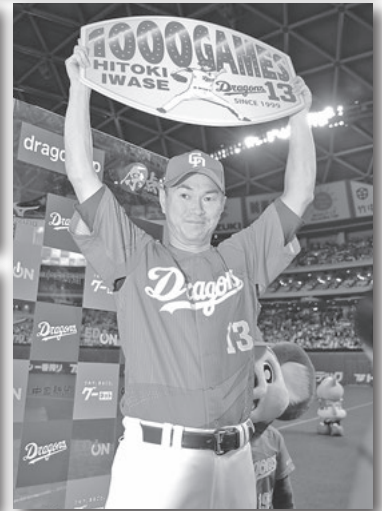
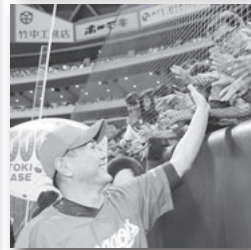
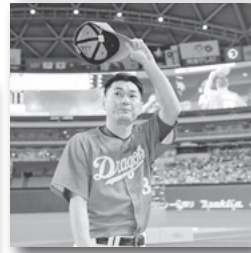


中日ドラゴンズ岩瀬投手が通算1,000試合登板を達成 前人未到、不滅の大記録を球史に刻み込む

西尾市出身で中日ドラゴンズ所属の岩瀬仁紀投手が9月28日、ナゴヤドームで阪神タイガース戦に登板し、プロ野球史上初となる通算1,000試合登板を達成しました。9回表1点リードの緊迫した状況の中、この日一番の大歓声に迎えられ、抑えのマウンドへ向かいます。熟練のピッチングで1イニングを無失点に抑えた岩瀬投手。今シーズン3セーブ目を挙げ、大記録に華を添えました。後日、今シーズン限りでの現役引退を表明。広報にしお12月1日号で、岩瀬投手のこれまでの輝かしい軌跡を紹介します。



©中田アサヒ

アーティスト・トーク&交流会 24 番目の佐久島アートが完成

新たな佐久島アート「すぐその、向こう側」の作者猫野ぺすかさんによるアーティスト・トーク&交流会が10月6日、さくナビで行われました。作品はさくナビの玄関を入った正面の壁一面に描かれた大作。幻想的な風景にネコやおオカミなどの動物が描かれ、実際に開けて中を見ることが出来る扉が付いています。参加者は猫野さんから解説を聞いた後、その世界観を楽しむように扉を開けて鑑賞したり、参加者同士の交流を深めたりしていました。



救出救護技術講習会・避難所簡易グッズづくり 三角巾の使い方などを楽しく学ぶ



10月9日、一色南部小学校で「救出救護技術講習会・避難所簡易グッズづくり」が行われ、一色南部小学校5年生と一色中学校1年生が参加しました。三角巾の使い方や避難所で使える簡易グッズの作り方などを、グループごとに体験しながら学習。三角巾の使い方など少し難しい部分を、事前に学習した中学生が優しくアドバイスしていました。簡易グッズづくりでは新聞紙を使ったスリッパや食器、座布団を作成。学んだことを災害時に生かそうと、笑顔を見せながらもみんな真剣に取り組んでいました。



第5回鉄研

にしがま線を楽しく応援

9月16日、幡豆いきいきセンターとその周辺で鉄研が行われました。廃線が危惧されている名鉄西尾・蒲郡線（にしがま線）を楽しみながら応援しようと毎年開催され、今年で5回目。「にしがま焼きそば」の販売や赤い電車の鉄道ジオラマの展示、ミニSLの乗車体験などさまざまな催しが開催され、たくさんの家族連れでにぎわいました。コントローラーで鉄道模型を操る運転体験では、子どもから大人までの多くの人が運転士気分を楽しんでいました。



佐久島サツマイモの収穫

島の新たな特産品を目指して



9月19日、佐久島で育てられたサツマイモ「サクのいも」の収穫が行われました。新たな島の特産品を開発しようと、島を美しくつくる会が中心となり、29年度からサツマイモの栽培を開始。収穫したイモで焼酎を製造し、来春に発売する予定です。収穫日には、焼酎作りプロジェクトに協力するJA西三河やNPO法人ONE STEP、愛知淑徳大学の学生など総勢50人が参加。汗ばむ陽気の中、手足を泥だらけにしなが、丸々と育ったイモを掘り起こしていました。

ワークショップ「御朱印帳を作らしよう」

和紙の手触りを楽しむ

一色学びの館で9月14日、ワークショップ「御朱印帳を作らしよう」が開催されました。市内の神社や寺の御朱印を紹介する企画展と併せて行われたもので、御朱印ブームもあって、当初の定員を超える人気ぶり。「ざらざらした方をのりでくっつける」「はけを使って塗るとはがれにくい」など作り方のポイントを学んだ後、和気あいあいと作業を進めていきました。自分だけの御朱印帳を完成させると、「手触りがいい」「早く使いたい」と満足そうに話していました。



カメラを通して見える世界 一日常の再発見一

レンズを通して日常を再発見



10月7日、岩瀬文庫でワークショップ「カメラを通して見える世界 一日常の再発見一」が行われました。講師を務めたのは、映像作家の丸山達也氏。参加者は、「レンズ越しに見ると、世界の見え方がいつもとちょっと変わって面白い」という講師の話聞いた後、きれいな石や食器など日常にあるものを、角度や配置に工夫を凝らしながらデジタルカメラやスマートフォンで撮影しました。最後に、お気に入りの写真を紙に印刷し、オリジナルのしおりやフォトブックを作成。おしゃれな出来栄に笑顔を見せていました。